

<b>上田仮説サークルニュース</b>	<b>12月例会</b>	2014. 12号
編集責任 遠藤 裕		発行2015. 1. 24
〒383-0041 中野市岩船426-3 サングァーデン中野 B-G Tel 0269-23-2847 携帯 090-1406-9115		
メール endo-h@cronos.ocn.ne.jp 勤務先 長野工業高校 Tel 026-227-8555		

12月20日(土) 上田市中央公館 3F第1・第2学習室  
午後3:00～6:15

参加者数 8名 資料総ページ 54ペ
-----------------------

<参加者> 渡辺規夫さん, 増田伸夫さん, 高見沢一男さん, 大塚浩文さん,  
北村秀夫さん, 北村知子さん, 柳沢克央さん, 遠藤裕

**はじめに** 12月例会の参加者は8名。

レポートは、渡辺さんから3本、増田さんから5本の発表がありました。

渡辺さんは、<SGHについての覚書>の中で、教育史の中から教育改革の失敗の歴史を取り上げ、SGHについての問題点を論じています。そして、「やることに意義を認めない者にやらせようとする事が無いことを望む。」と述べています。<研究会参加報告>には、仮説関係の研究会での板倉さんや竹内さんの講演の概要が紹介されています。<研究会参加報告(続)>は、牧さんの講演や理科教育関係の研究会の報告です。

増田さんは、前回に引き続き「今月のお話」として、牧さんの今までの講演の中から多くの人に読んでもらいたいという文章を再編集して紹介してくれました。<覚悟を決めれば自由になれる>、<自由とは何か>、<世の中の流れをとらえて方針を立てる>、<ネイション(nation)の歴史>、<仮説実験授業の成立当時のこと>の5本。牧さんのお話は分野が広く、ものごとの見方や考え方にとても参考になる内容です。

体験講座<グラフで見る太平洋戦争>は、たびたびの延期ですが次回のサークルで行う予定です。

今回は渡辺さんが企画してくれたサークルの忘年会のため、普段より早い6時15分に終了しました。

終了後、上田駅前の「千年の宴」で忘年会。参加者は9名。

## 1. 発表資料

### ① サークルニュース 11月例会 遠藤 裕 (6ペ)

#### 1. 発表資料

- ① サークルニュース 10月例会 遠藤 裕 (5ペ)
- ② 講演 科学史研究と高校理科教育 渡辺規夫さん (4ペ)
- ③ 剛体の力学単元テストの正答率と分析 渡辺規夫さん (20ペ)
- ④ 今月のお話 牧衷：コモン (common) とは何か。 増田伸夫さん (4ペ)  
ー日本人の公感覚を問い直すー
- ⑤ 今月のお話 牧衷：現代民主主義の危うさ 増田伸夫さん (4ペ)  
ー民主主義は独裁を生むー
- ⑥ 今月の旅行 (中欧) 増田伸夫さん (36ペ)
- ⑦ 「溶解度」の難問の解き方 北村秀夫さん (4ペ)

### ② S G Hについての覚書 渡辺規夫さん (8ペ)

教育史から見たS G Hの問題点についての覚書。

渡辺さんは「S G Hをやるのは意義は少なく、問題点が多い」ということを<情勢分析>と<教育史>を通して論じています。

#### ◆情勢分析

**グローバル化の歴史** 日本の朝鮮出兵，東南アジア進出，日本人町の形成（第1次グローバル化）→幕府の鎖国政策により頓挫。→満蒙開拓団の悲惨，戦後の経済成長（第2次グローバル化）→現代社会（第3次グローバル化）の基本的な対立軸は「自由と平等」で，そのときの情勢で政策判断が分かれる。自由派によるグローバル化推進，新自由主義が行き詰まったときの可能性も視野に入れた教育方針が必要

**未来のことはわからない** 生徒にどのような教育をしていくべきか。それは，不確かな未来に適応させようとする教育ではなく，どのような情勢変化にも対応できる能力，どのような情勢に対しても的確に判断実行できる能力を養成する教育ではないだろうか。そのためにS G Hは有効といえるだろうか。

**海外への留学者数の減少は問題か** アメリカの物理専攻の学生：20世紀初頭はドイツに留学したが，第2次大戦後留学する学生はいなくなった。留學生が減ったのは喜ぶべきこと。日本の學生が留学しないことを心配している人は，日本がすでに先進国になっているのに，後進国意識で心配しているのである。

**開発途上国の学習意欲と先進国の学習意欲** 成熟段階に入った日本の學生の学習意欲を喚起するために必要なことは，開発途上国の學生を見習わせることではなく，学問のたのしさ，学ぶたのしさに気づかせることである。学習意欲を高めるために交流させるということは見当違いである。

#### ◆探究活動について教育史をもとに考える

**探究的教育の歴史** 自由学園の女學生の例から，「生活単元学習のように生徒の自主

性に任せる教育はダメだ」という茅誠司，中谷宇吉郎の確認。

**探究の過程を重視した理科教育1973～1982年** 探究の過程を重視した授業実践報告がされたが，2～3年でそのような報告は姿を消した。生徒に探究活動をさせてもほとんど成果が上がらないことがはっきりした。もともと失敗するしかない方針だった。

**理科教育における課題研究** 理教科では義務づけられているが，ほとんど成果を挙げていない。指導できる先生がいない。基礎学力がない生徒は研究できないのである。探究の過程を重視して成功した授業は仮説実験授業だけである。成功の一番の理由は，よい問題を生徒に提示することができたからである。しかし，これは大変難しいことである。

#### ◆繰り返し起こった教育改革の失敗の歴史

**大正デモクラシーの中で作られた私立小学校** 詰め込み教育を批判し，「子どもたちを自由に学ばせることで理想的な教育ができる」という主張にもとづく教育は，10年経たない内に成果が上がらないことがはっきりしてしまった。創立して10年ほどでほとんどの学校は有名中学への進学を誇る学校になった。詰め込み教育が復活したのである。

**中高一貫校** 入試がないと生徒が勉強しない現実にあきあきしてしまった。高校から受験によって生徒を入学させて，中学からの生徒と競争させるようにした。「入試がなければ理想的な学校ができる」という考えは否定された。

**宮城教育大学の入学試験の改革** よい教員になるための必要な能力は受験学力ではないとして当時の共通一次試験ではなく，太鼓を叩かせるなどの入試を実施。この入試制度はまもなく廃止された。

**東京帝国大学文科大学（現在の東京大学文学部）の改革** ドイツの大学の制度を取り入れ，「定期試験は廃止，講義を担当した教官が認めればその科目を修了したと認める。」という改革。「試験による束縛より，内発的な動機による学習意欲が大切だ」と考えた。弊害百出のため6年で廃止となった。理想を実現させるための条件が当時の東京帝国大学にはかけていた。ドイツの大学では半年ごとに転学する自由があり，そのような条件のもとでの試験廃止だった。

**国定教科書と指導要領にもとづく教科書はどちらがよい教科書か** 国定教科書の方がよい。方針策定者自身が教科書を書くと，実際に教えられないことは書かない。

#### ◆結論

1. 探究的学習についての成功した先駆的实践はない。
2. 高い理想を掲げて始まった教育改革で，成功したものはほとんどない。
3. もっともらしい目標が掲げられたときは要注意。
4. 自分でやらない人が人にやらせようというときに，齟齬が起こる。

（県内でSGHを導入した高校の先生の話では，「県がこの事業の管理団体になっていて，たとえば

必要なパソコンなんかも購入できない、など予算が自由に使えず大変です。」とのことでした。現場の裁量がほとんどないそうです。 エトヾリ

### ③ 研究会参加報告 渡辺規夫さん（12ペ）

渡辺さんが参加された研究会の報告。

研究会「仮説実験授業の基礎とこれから」 2013年11月2日～3日 機械振興会館

仮説実験授業50周年研究会 2013年12月26日～27日 横浜オフィスタワー

仮説実験授業研究会冬の全国合宿研究会(蒲郡)2014年1月4日～6日(参加5日まで)

竹内三郎が語る横から見た仮説実験授業 2014年1月12日 日本青年館

仮説実験授業研究会夏の大会山口大会 2014年7月27日～29日 湯田温泉

(板倉さんの講演の紹介が中心になっていますが、板倉さんにはまだまだ研究したいことが山のようにあるようです。竹内さんの講演の「クレームを受ける仮説実験授業をやっている先生」の話で、渡辺さんは「仮説実験授業についてとんでもない誤解をしているかもしれない。」と4つの誤解例が挙げられていますが、これがおもしろいです。 エトヾリ

### ④ 研究会参加報告(続) 渡辺規夫さん(8ペ)

渡辺さんが参加された研究会の報告の続き。

人間ドック受診者への講演 口の病気は万病の源 2014年2月3日

佐久総合病院 歯科口腔外科 松島先生講演

長野県の理科教員の動向 2014年8月4日 信州大学繊維学部内 AREC

長野県理化学会総会会長挨拶より 会長(伊那北高校長)澤井淳先生

映像教育研究会 2014年2月1日 東京 御徒町 ナリカ

正しいイメージを持たせる教育を 講師 牧衷 2013年6月29日 上田市中央公民館

上田高校理科旅行 2014年9月3日～4日

全県理科教育研究会 2014年9月12日(金) 松代荘

川勝博さんとの懇親会 2014年11月8日(県教研の初日) 上田駅前 りんせん

県教研理科分科会 2014年11月8日～9日 上田千曲高校

(「映像教育研究会」と「正しいイメージを持たせる教育を」は牧さんの講演です。後者の中の「考えるとき<〇〇とは何か>は役立たない。<〇〇の機能は何か>と考えることが必要である。」という牧さんのことば、これから実践していきたいと思いました。 エトヾリ

⑤ 今月のお話 牧衷：覚悟を決めれば自由になれる（高校生へ） 増田伸夫さん（4ペ）

－汝が欲するところを為すとも－

牧さんの講演記録集（『牧衷講座6』）から増田さんが再編集した文章の紹介。

◇世の中が食わせてくれる 世の中がちゃんと安定している以上、必ず世の中はその世の中に住んでいる人を食わしちゃうんです。ですから、どういうことになるうが、食いつぱぐれの心配をすることはまずない。自分からドロップアウトすれば話は別です。でも、そうでない限りは世の中が食わしてくれちゃうものなのです。

◇Do what you will！（汝が欲するところを為すとも） フランス・ルネッサンスを代表する文豪フランソワ・ラブレーの書いた小説『ガルガンチュア物語』の中に「テレームの僧院」という理想的な僧院の話が出てきます。その僧院の憲法は《Do what you will》。それから約300年後、英国のオールダス・ハクスリーという評論家にやはり『Do what you will』という表題の評論がある。読んでみると、＜汝の欲するところを為せ＞、＜やりたいことをやりなさい＞なんてことではない。なかなか大変なんだということがよくわかる。この評論集を日本語に翻訳した朱牟田夏雄さんは、『汝が欲するところを為すとも』と訳した。これは名訳。これは自己責任の世界ですから、やったら大変。《Do what you will》好きなことをやれ。そのかわり、その結果生ずる責任は全部かぶれ、笑って引き受けろ、だから覚悟がいらいます。

◇覚悟を決めると自由になれる 何をやってもいいんだけど、＜その結果を人のせいにするな＞っていうんです。覚悟を決めることによって、初めて人間は自由になれます。覚悟がないと人間は自由になれない。

◇人間は幸運から逃げられない 自分がやったことはすべて自分の決断だと、そういうふうに考えてやりますとね、じつに世の中愉快的なものでして、必ず幸運がついてまいります。私は日頃、「人間は幸運から逃げられないようになっている」と言っておりますけれども、幸運の方がくっついてきてしまいます。覚悟だけできりゃいいんです。

増田さんのあとがき

明るく元気が出る話です。この底抜けの明るさの根底にもやはり戦後精神があって、＜人間は自分から動くしかない＞という「自発性の尊重」があるのでしょうか。私もこういう話を若いときに聞いていれば、もっと早く大人になれていたかもしれないと思いました。高校卒業や中学卒業を目前にしている若い人たちにぜひ聞いてほしい話です。

（「覚悟を決めると自由になれる」ということばは、生徒さんだけでなく社会に出て働いている我々にもいえることで、時々このことばを意識したりしています。 エドワ）

⑥ 今月のお話 牧衷：自由とは何か（高校生へ） 増田伸夫さん（4ペ）

ーリバティーとフリーダムとフォーゲルフライー

牧さんの講演記録集（『牧衷連続講座記録集Ⅲ』）から増田さんが再編集した文章の紹介。  
高校生の質問に答えて急に始まったお話し。

◇英語には2つの自由（リバティーとフリーダム） リバティーは、もともとは「気前がいい」という意味。「気前がいいことができる」というのが自由。フリーダムは、「ある保護規制の中に入る」ということ。

◇フォーゲルフライ（小鳥の自由）とフリーダム ドイツ語のフォーゲルフライというのは「小鳥の自由」という意味で、これは一切の保護から自由になること。フリーダムは＜共同体の保護の中に入って規制を受ける。そうするとその中で命と財産の保障がなされる＞。

◇僕はフォーゲルフライが大好き 若い頃は常識的な人から見れば放蕩無頼で、撃ち殺されてもいいような生活やってみましたけど。

◇フォーゲルフライと狼男 フリーダムの自由は規制に入ることが前提。きつい規制があるからフォーゲルフライになっちゃう奴が必ず出てくる。そういう連中は森へ行き、フォーゲルフライの共同体ができる。これが狼男で、月夜に出てくる。

◇フォーゲルフライ（本当の自由）は命がけ 本当の自由の天秤の片側には「死」がのっかっている。「覚悟しいや！」、＜フォーゲルフライになるなら命賭けろ＞ということ。—今の高校生にとっての自由とは—「自由ってものは、ある規制と引き換えに得られるものだ」ということ。学校という共同体の中で「学校の規制を全部守ります」と言えば学校に保護してもらえる。

◇人間にとって最大の抑圧とは じつは＜つまらないことを抑圧することが人間にとって最大の抑圧である＞ってことを先生たちは知らない。髪の毛が長い短いの、スカート丈が長い短いの、そんなことは個人の自由裁量に任されるべき問題で「そんなことさえも俺たちの自由にならないのか」ということなんです。

増田さんのあとがき

僕も若い頃は「自由」という言葉が好きでした。「自由」のもつ深い意味も知らないまま、なんとなく「自由」という言葉に憧れていたような気がします。「自由とは何か」というお話しも（質問に答えて急に始まったお話しですが）、若い人たちにぜひ聞いてほしい話です。

（「フォーゲルフライ」に憧れはありますが、そこまでの「覚悟」ができない自分があります。やはり規制があった方が生きやすい……。 エンドゥ）

⑦ 今月のお話 牧衷：世の中の流れをとらえて方針を立てる 増田伸夫さん（4ペ）

－外部経済の内部化－

牧さんの講演記録集（『牧衷連続講座記録集Ⅱ』）から増田さんが再編集した文章の紹介。  
計量器具の検定を行っている会社（役所の外郭団体）の労働組合学習会でのお話し。

◇アジビラと世の中全体の流れ 運動というものがどういう方向に向かっているかを見るときには、方針書なんか見てもだめで、アジビラを見るのがいちばんよい。そういう資料の収集なしに何か言っても、だいたいの外れになる。大きな運動を考えると、そういうミクロな考えと同時に、大きな、歴史的な、大きなスパンでものを見る必要がある。ことに運動体は「運動方針を立てよう」というときに、そういう大きな流を見失うと、昨日・今日・明日のことしか目に入らないで、＜世の中全体がどういう方向に動いているのか＞とういことがわからずに方針を立ててしまうことになる。そうすると大体運動というのはだめになります。1960年代まで高度成長が続いた間は、世の中が＜資本と労働＞の対立という格好で動いていた。その後は世の中の方が＜資本と労働＞の対立で動かなくなった。動かなくなったときに、なおかつ労働組合の古い考えで＜資本と労働＞という対立軸だけに目をつけて運動方針を作っていれば、時代遅れになるのは当たり前。時代遅れでメチャメチャになってしまったのが、日本の労働運動。

◇外部経済の内部化 ＜今まで日本ではお上がいろいろなことをやりすぎた、何でもかんでもやってしまうということが社会において非常な不経済につながった＞ということを考えなければならなくなってきた。ペットボトルを作った会社が回収して処理（再利用）しなければいけないというふうにくものを生産した人間が処理まで責任をもつ＞。世の中の動きは＜外部経済の内部化＞という方向に向かっている。

◇世の中の流をとらえて方針を立てる 組合も＜いま世の中の流れはどっちを向いているか＞を考え、それから市民の要望や実状から考え直して運動方針を考えないといけない。

◇敵の打ちたいところへ打て 区役所で住民票を取るとき、「夜8時まで取れるようにする」ということは組合の方が先に要求していく。そこに今まで以上の人員が必要になる。＜その人員を確保していく＞という要求を出す。そうすれば市民は応援してくれる。だから勝てる。だからそれが首切り行政改革に対する唯一正当な闘いのやり方。

◇負ける闘いをするとどうなるか 労働組合ってというのは、勝てない喧嘩をやっちゃいけないんです。労働運動の中心となって計画している人たちは、負け戦の経験しかないとなれば勝ち戦ができない。勝ち戦の経験をたくさんする必要がある。小さなことでもかまわない。勝ち戦の経験をいくつもいくつも積み重ねて、やっぱり強い組合ができるし、強い社会的な力ってものができる。

◇組合員の心をつかみ、市民の心をもつかむ方針 組合の方針ってのは、まずもって組合員の心をつかまなければだめだし、それと同時に、市民の心をつかまなければいけ

ない。そうでないと勝てない。それにはどこに目をつけたらいいか、組合員の持っている市民的な部分に目をつけるよりしょうがない。「市民的な部分から見たらどうか」と考えてみるのが大事です。

#### 増田さんのあとがき

私も世の中の大きな流れをとらえ、教育や社会を明るく展望したいと思いました。(このお話は、組合で役員をしている人たちにも是非読んでもらえるといいなと思い、長野労連の幹事会で資料として配布させていただきました。支部の評議員会でも紹介をしたいと思っています。)

エトワリ)

### ⑧ 今月のお話 牧衷：ネイション (nation 国民国家) の歴史 増田伸夫さん (4 ペ)

#### －ネイションの概念の再検討－

牧さんの講演記録集 (『牧衷連続講座記録集Ⅳ』) から増田さんが再編集した文章の紹介。

◇情勢分析の目の付け所－ネイション 僕が何でこんなネイション (nation : 国民国家) の概念の検討などということ考えたのかといいますと、世界の情勢を見たり、日本の情勢を見たりするときの一つの目の付け所として、ネイションの概念を整理しておく、いろんなことがとてもよく見えてくるからです。

◇ネイションの萌芽－マグナカルタ (1215年) ランド (land : 封建領地) の枠組みが崩れてくる。イギリスにおけるネイションの萌芽。

#### ◇英仏百年戦争を通じてネイションが成立 (第1期ネイション：国民国家の成立)

ネイションは非常に求心力が必要で、求心力を得るのに一番いいのは戦争。百年戦争でイングランドやフランスの一体意識を非常に強めることになる。ルイ 14 世によるフランス統一ができあがるのは 1477～78 年。イギリスでは、チューダー朝が成立するのが 1485 年。これがイギリスとフランスでネイションが成立した時期。

#### ◇日本におけるネイションの萌芽－赤穂義士論争

室鳩巢と荻生徂徠の論争。幕府は荻生徂徠を取り、これが日本自前の近代つまりネイションの萌芽。(丸山眞男が若いころやった議論。)

◇第1期と第2期のネイションを同時に作る－明治維新 明治維新最大の目標は<ネイションを作る>ということ。廃藩置県は第1期ネイション、身分制度の破壊 (四民平等) は第2期ネイション。第2期ネイション：市民革命を通じて市民国家 (議会主権) になった国はイギリスとフランスの2国

◇工業化の進展が主権在民の国家 (ネイション第3期) をもたらず 工業化が進むとネイションが変質。リンカーンのゲティスバーグ演説 (the people : 人民) (1863 年)。<主権在民がはっきりしていて、普通選挙法を持っている国家 (ネイション第3期)>、いま普通に「民主主義国家」といわれる国家。

◇工業化で生じた核家族を制御するために選挙権を与える ネイション第3期の革命には市民はあまり関係ないんじゃないか。ここがぼくの独創的なところになります。

◇増田さんのあとがき　いまスペインのカタロニアやスコットランドの分離独立運動が話題になったりしていますが、それらを含め牧さんはすでに 15 年ほど前（1997 年）に予言していたわけです。それほどに牧さんの情勢分析は的確です。

（増田さんのあとがきには、「じつは、この講演は本当はこれからがおもしろいのです。」とあります。是非また読み直してみたいと思っています。　エトワリ）

## ⑨ 今月のお話 牧衷：仮説実験授業の成立当時のこと 増田伸夫さん（4 ペ）

### －板倉さんとボク－

牧さんの講演記録集（『牧衷講演記録集第 9 集』）から増田さんが再編集した文章の紹介。

◇火曜研究会　最初の授業書作成のための検討会上廻さんや庄司さんが来ていて、火曜日に研究会をやっていた。意識的にその研究会に行かなかったのも、その直接の現場は知らない。板倉さんは興奮まくっていますから、その後でボクに会えばそのときのことをつぶさに話すわけですね。ちょうど《振り子と振動》の授業書をつくる頃です。

◇学生運動と授業　学生運動と授業は、ボクにしてみればまったく同じ話なんですよ。つまり、<いい問題を選んで、提起して、それについての全員参加的な討論をして…>。学生運動では、自ずと選択肢は 2 つか 3 つに絞られる。「仮説実験授業の授業書は選択肢が最初にあるのでケシカラン」などという批判に対しては、「何言っているんだ。ほんとに討論やったことないからそんなこと言ってるんだ。ほんとにちゃんと討論したら、人間の頭なんて 2 つか 3 つの選択肢しか思い浮かばんものだ。だから、選択肢に対してどうだと聞けばそれでいいんだ」と。

◇学生運動に学んだ牧衷、研究に進んだ板倉　政治運動というのはいろんな権力闘争が絡みますから、非常に悲惨なことも起こるんです。それで板倉さんは「これはオレのすむ世界じゃない」と思ったんだろうと思います。ボクもそういう権力闘争なんてのは苦手なんだけど、「オレのすむ場所はここだ」と思って学生運動の方に行きますから、そこで板倉さんとボクはパッと分かれ、再開するまで違った道を進んでしまいます。

◇岩波映画で原子論的科学教育映画をつくる　これまでの科学教育のどういうところがちゃんとしていないのかと考えて、最初にボクが思ったのは、<分子運動論なんてのははなから教えろ>と。<子どもにだってわかる理屈のものなんだから、最初から教えられるといいだろう>と。ボクの映画は、きわめて原子論的な解説をやるんですね。その背後には、寺田寅彦以来の岩波書店を支えている科学者グループがいて、その人たちとの協力でできあがってくるわけです。

◇板倉さんと再会　板倉さんが新聞に書いた科学史のコラムを読んで、国研に電話。国研で「映画を作るの少し手伝ってくれないか」と言ったら、「それはおもしろい」と。

<科学史上の問題になったことを取り上げて映画を作ったらおもしろいんじゃないの>とアイデアを提供してくれた。その材料をもとにして、「ものはどのように落ちるか」「真空の発見」「生物はどこから来るか」というものを作るわけです。仮説実験授業ができる1年か2年前に映画を通じて板倉・牧の交流時期があるんです。

◇板倉さんと上廻さんの授業研究 都立教育研究所でやった板倉さんの講演で、<子どもの認識の発展過程でも、科学史的な発展と同じような認識の発展をするんじゃないか>という話。これを上廻さんが聞いて板倉さんのもとへ内地留学。それで授業の研究が始まった。

◇増田さんのあとがき このお話の中で、学生運動に進んだ牧さんと科学史研究に進んだ板倉先生が再開し、ともに新たな科学教育づくりに熱中していくところが特に興味深いです。

(板倉さんと牧さんの共通点について「学生運動に関わっていた、その後の学生運動や自然弁証法研究会を通して仮説実験授業や研究会にも通じる運動論や組織論を見いだしてこられたのかもしれない、ともに原子論的な世界観をもとに自然や社会を見つめている、自由で明るく自発性を尊重する戦後精神にあふれている」と増田さんはあとがきで分析しています。 エドワ)



**あとがき** 明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひいたします。

12月例会では、渡辺さんの<研究会参加報告(続)>の「映像教育研究会」と「正しいイメージを持たせる教育を」での牧さんの講演、増田さんの<今月のお話(牧さんの講演5本)>と牧さんに関連する発表が多かったです。上田仮説サークルは、牧さんの話題にはことかかないようです。できればまた牧さんの講演を直接お聞きしたいです。

組合の支部書記長という慣れない仕事をして9ヶ月。この間<組合とは何か>ということがいつも頭の中にもありました。牧さんのことば(「正しいイメージを持たせる教育を」)から、<組合の機能は何か>と問題設定をしないと「何も生み出さない」と気づきました。問題設定をし直して残りの任期に取り組みたいと思っています。(エドワ)

★ 今後の予定 ★  
2月28日(土)  
3月21日(土)  
4月 調整中

**牧衷 講演会**  
**明日への展望が見える・現代を語る**

日時 2015年2月7日(土) 13:00受付 13:30～16:30  
会場 鶴見公会堂 7階 1・2号室  
参加費 2000円  
定員 50名  
申込み メール・はがき・ファックス(氏名・〒番号・住所・電話番号)を必ず記入  
宛先 小林光子 〒230-0012 横浜市鶴見区下末吉5-9-35  
TEL・FAX 045-573-8298  
itakurakenkyusitu@gmail.com